

# 10 レブンアツモリソウ保護・増殖についての一考察

宗谷森林管理署 森林官（礼文） 土居 拓務  
礼文町高山植物培養センター 主査 村山 誠治

## I. レブンアツモリソウはこんな花

レブンアツモリソウは淡黄色に袋状の花形が特徴的な礼文島固有の多年草地生ランです。種子が発芽するには特定の共生菌(*Tulasnella*属)の感染が不可欠です。また、その成長速度は非常に遅く、開花するまでに6~7年を要しますが20年以上も生き続ける長寿な植物です。かつては島内に広く分布していましたが、現在ではごく限られた地域にのみ自生しています。本種はその希少性から絶滅危惧IB類(環境省RL)や絶滅危機種(Cr)(北海道RDB)に分類され、さらに種の保存法に基づき特定国内希少野生動植物種にも指定されています。その容姿と希少性から島の観光資源としてだけでなく、園芸植物としても高い価値を有しています。



レブンアツモリソウ(英 Lady slipper)  
*Cypripedium macranthos* var. *rebunense*

## II. レブンアツモリソウが置かれている状況

過去にレブンアツモリソウは盗掘被害により出現個体数を大きく減少させました。監視活動や保護啓発活動を続けた結果、近年、盗掘被害はほとんどなくなりましたが(表1)、本種の個体数は依然として減少傾向にあります(図1)。

個体数が増加しない要因として、島民の生活様式の変化や地球温暖化による生育環境の変化などが考えられています。

表1 盗掘被害数の推移

期間(年)	盗掘個体数
1981~1990	2,006
1990~2000	29
2001~2010	0
2010~2017	4

(宗谷森林管理署礼文森林事務所調べ)

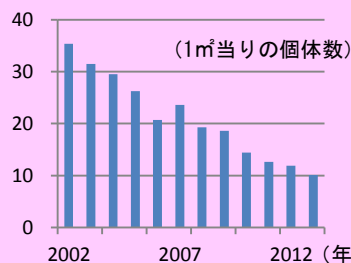


図1 鉄府保護区における個体数の推移  
(森林総合研究所 河原氏 提供)

## III. 保護・増殖に向けた環境改善の取り組み

レブンアツモリソウは生育環境が悪化すると土の中で休眠し、改善されると萌芽します。そこで休眠個体の再萌芽さらには世代の更新(実生の出現)を目的に、本種自生地とその周辺において、試験的にササや高茎草本の刈り払い、及び長年にわたって堆積した枯草の除去を行いました(図2、3)。

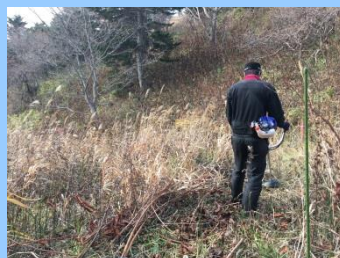


図2 高茎草本等の除去風景



図3 環境改善後の様子

## IV. レブンアツモリソウの保護・増殖はどうあるべきか?

礼文島は面積の約8割が国有林であると同時に約5割が国立公園に指定されており、保護林や特別保護地区などの厳しい保護規制のかかった区域が多く存在します。このような区域では人が手を加えない環境の管理を原則としますが、保護・増殖の対象となる個体の持続的な生育・成長に不可欠な場合には、状況により人が手を加えての環境改善(積極的な環境改善)も必要と考えられます。

昨年度からレブンアツモリソウの保護・増殖を目的に上記規制区域内においても積極的な環境改善を試験的に行っており、今年度、試験地から幼苗の再萌芽が確認されました。このことは積極的な環境改善が本種の保護・増殖に有効である可能性を示唆しています。現在の自生地やその周辺、更には過去の自生地の環境を人の手で改善することにより、休眠個体の再萌芽や世代の更新が期待されます。

本取組はモニタリング調査や科学的な知見に基づき、今後も慎重かつ計画的に継続する予定です。